

「人工呼吸器があってもみんなと一緒に！～支援者と地域で暮らす」

バクバクの会～人工呼吸器とともに生きる～

関西支部幹事 あらいまり 新居真理さん

9月6日（木）

「ひきこもりだった。でも、だからこそ感じられたことや

できたことがあった。」

NPO みんなの未来かいたく団 代表理事 こじまいっぺい 児島一平さん

9月13日（木）

2018年度 講座

生きること

～一人称で語る自分史～

「閉じ込められた命～私の母はハンセン病でした」

ハンセン病家族訴訟原告団 副団長 ひあんぐあんなむ 黄光男さん

9月19日（水）

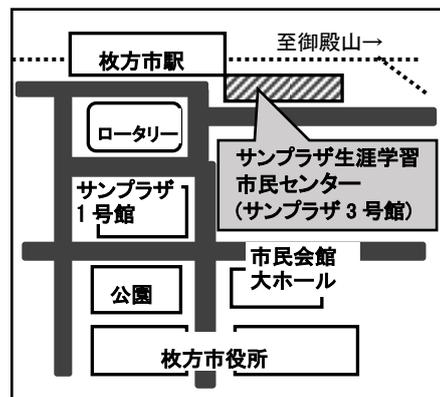
「食べることは、生きること

～拒食症だった私が、旅するおむすび屋を始めた理由」

(株)CAMPFIRE FOOD・LOCAL 担当 すがもとかな 菅本香菜さん

9月26日（水）

- 会場 サンプラザ生涯学習市民センター 視聴覚室(サンプラザ 3号館 5階)
- 時間 各講座 午後2時～4時
- 定員 各講座80人
- 参加費 無料 ※1講座のみの参加もできます
- 参加申込 8月1日(水)から枚方人権まちづくり協会で、電話またはFAXで参加受付
- 保育 保育(各講座先着10人まで、生後6か月から就学前児)、手話・要約筆記の必要な方は、各講座1週間前までに申し込んでください
- 申込・問合せ先 特定非営利活動法人 枚方人権まちづくり協会
電話 072-844-8788 FAX 072-844-8799



主催 枚方市、枚方市教育委員会、特定非営利活動法人 枚方人権まちづくり協会

講師からのメッセージ

第1回 9月6日(木)

「人工呼吸器があってもみんなと一緒に！～支援者と地域で暮らす」

バクバクの会 ～人工呼吸器とともに生きる～

あらいまり
関西支部幹事 新居真理さん

「人工呼吸器」と聞くとどんなイメージを持たれますか？終末期医療？病院の重病患者？

生まれた時から人工呼吸器を使っている息子が、支援学校から地域の中学校を経て配慮受験をし、今高校生として地域でふつうに楽しく暮らしている。そんな息子との生活を知ってもらい、一緒に考えてもらいたいと思います。

第2回 9月13日(木)

「ひきこもりだった。でも、だからこそ感じられたことや
できたことがあった。」

こじまいっぺい
NPO みんなの未来かいたく団 代表理事 児島一平さん

かつてひきこもっていた頃。学校に行けない自分に嫌悪し、涙した。自分なんて生きる価値が無いと思って眠れぬ夜を過ごした。

でも。朝、腹減るんや。腹減って、そんで、食ったメシが旨いんや。
死んだ方がいいと思ってたのに、腹は減るし、食ったメシが旨いんや。
何やこれ？と思ったよ。

でも。でも、命なんてそんなもんかも。メシが旨ければ生きていける。
これは自分がひきこもりをしたからこそ感じる事ができたこと。
そして、今はそんな経験を糧にして社会活動もやっている。社会活動をやりたいから、ビジネスだって頑張れる。
そんな生のエピソードなどがお話できたらと思ってます。

第3回 9月19日(水)

「閉じ込められた命～私の母はハンセン病でした」

ふあんぐあんなむ
ハンセン病家族訴訟原告団 副団長 黄光男さん

いつになったら語れずに苦しんでいる家族たちが、自由に気兼ねなく語れる時がくるのだろうか。

「ハンセン病の親を持ったことは、本当は恥ずかしいことじゃないよ。堂々と胸をはって語ってもいいんだよ。」と、わたしが裁判長にこう語りかければ、その声を多くの家族たちに届けてほしい。そして裁判長は「家族に被らせた被害を認め国は謝罪せよ。」と断言してほしい。そうすれば家族たちは、療養所にいる親をもう恥ずかしく思うことはない。

ふるさとに自由に帰れるんだ。そんなふうな夢が実現することを願ってやまない。

第4回 9月26日(水)

「食べることは、生きること～拒食症だった私が、旅するおむすび屋を始めた理由」

すがもとかな
(株)CAMPFIRE FOOD・LOCAL 担当 菅本香菜さん

はじめまして。旅するおむすび屋の菅本香菜です。

全国各地の生産者さんをめぐっておむすびツアーを行ったり、みんなと一緒におむすびを結ぶワークショップや授業を行ったりしています。

私が食に関心を持ったきっかけは、中学から高校にかけて拒食症になったことです。食べることがこわくなり、体重は23kgまで落ちました。「いつ死んでもおかしくない」そう医者にも言われたこともあります。

これらの経験を通して実感した“食べることは生きること、そして生きる喜び”だということを今回皆様にお伝えできればと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。

